

『学術文化紀要』の創刊を祝って

学 長 鯉 渕 信 一

このたび、新たに『学術文化紀要』が発刊されること、まことに意義深く、心から祝意を表します。

亜細亜大学は今年、創立60周年を迎えましたが、その記念すべき年に全学的な広がりをもつ「総合学術文化学会」が設立され、本紀要が創刊されることに二重の意義を覚えます。

21世紀を迎えた今日、科学技術やバイオ技術、IT技術の進歩はとどまるところを知らず、経済面ではグローバル化がうねりのような勢いで進んでいます。しかし、そうした科学技術の進歩や経済の拡大は生活を潤す一方で、私たちの前に地球環境問題、民族問題、南北問題など極めて深刻な問題を突きつけ、価値観の転換を迫っています。今やこの深刻さは個別の科学技術や経済、文化の枠を越えて、文明論として捉えなければ解決の糸口さえも見つからない状況です。

こうした時代に生きる私たちには、時代の高みに立った世界観と人生観を持つことが求められているのではないのでしょうか。学術研究にせよ、教育にせよ、それを持たずに狭い専門性のみを追求しては袋小路から抜け出すことはおろか、危険でさえあります。

本学は、建学の当初から時代の高みに立って、アジアそして世界との共生という理念を掲げ、「自助協力」の人間形成教育を目指してきましたが、まさにこれこそが21世紀にも求められる大学像であろうと思います。本学においては、これまで、その理念追求の中核的役割を教養部が担ってきた

ことは周知のとおりです。

本紀要が、本学の学術研究と教育に多大な貢献をした『教養部紀要』の伝統を受け継ぎつつ、更なる発展を遂げられることを期待してやみません。